



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
2 月 号
2021. 2. 24 発行

龍に乗っちゃおう！

校長 海 頭 巖

突然ですが「『龍』って何色ですか？」先日この質問を職員室でしたところ、「そりゃあ『緑』でしょ」とか『黒』、『赤』などとイメージやとらえ方が様々でした。ドラゴンボールに登場する『神龍（シェンロン）』や日本昔話のオープニング曲で登場する子どもを背に乗せて天を悠々と舞う『龍』のイメージがあるので『緑』と答えられた先生方が多く、私はとなると水墨画で表現される龍のインパクトが強いため『黒』。教頭先生は『金』をイメージされたようでした。「皆さんは如何ですか？」

なぜ、このような質問をしたかということ、私は最近『写龍』を知り、それにチャレンジしているからなのです。『写経（お経文をなぞったり写したりすること）』は聞いたことや、体験したことがある人もいます。しかし『写龍（描かれた龍の絵をなぞったり写したりする）』となると、聞いたことや体験したことの無い人がほとんどだと思います。実は、斎灯マサル氏の『写龍』という本に出会ってから、筆ペンを使って龍を写すことにハマっています。私から『写龍』を紹介された先生方や生徒たちの中には、緑や黒といった単色で表現したり、クーピーや色鉛筆などを使って多色で描いた人もいました。原画は一緒なのに、どれも個性的で躍動感があり、私の『写龍』よりも素敵でした。

さて、『龍』は九つの生き物の集まりで成り立っているということを知っていますか。角はシカ、頭のコブはラクダ、目はウサギ、耳はウシ、身体はヘビ、腕はトラ、爪はタカ、鱗はコイ、そして尻尾がワニだそうです。まさに九つの生き物それぞれの個性を否定しないで、同居させ共存することで、勇猛でエネルギーギッシュな『龍』になっているのです。まさに『仲良しのシンボル』としての『龍』に脱帽ですね。『龍の顔』を想像できますか。龍には口を開けている『阿形（あぎょう）』と口を閉じている『吽形（うんぎょう）』との二種類があります。『阿形と吽形』といえば、神社の『狛犬』や東大寺南大門の『金剛力士像』が有名ですね。また『阿形と吽形』で『阿吽の呼吸（共に一つのことをするときなどにお互いの微妙な調子や気持ちが一致すること）』の言葉でも知られています。なんとなく『阿形と吽形』の二つで一つが完成するといった感じがします。しかし、龍は独立して一匹で勇猛に天を舞うといったイメージがあります。そんなシーンを思い浮かべるのは私だけでしょうか。口を開けた『阿形』は幸せをつかみに行く龍。口を閉じた『吽形』は幸せを守る龍だそうです。そんな思いで龍を見ても面白いと思います。

『龍に乗る』という言葉があります。これは『運がよくなる。いい流れに乗る』という意味です。『阿形と吽形』を携えて、いい流れをキャッチして、それと調和する気持ちで自分自身を運びだして、笑顔と感謝であふれる場所へ行きたいものですね。

梅の花の香りに誘われて防府天満宮に行きました。防府天満宮の春風楼に飾られている龍の彫刻は『阿形と吽形二匹の白龍』が絡み合っていました。まさに『阿吽の呼吸』が感じ取られ、たいへん迫力もありました。ご利益とパワーを戴き『阿形と吽形』を携えて龍に乗れそうな気がしてきました。